

8. 引用文献・参考資料

- 1) 専門医のための消化器病学：医学書院、小俣政男、千葉 勉監修
- 2) 薬理学：南江堂、田中千賀子、加藤隆一編（2004）
- 3) 医科薬理学：南山堂、遠藤政夫、他編（2005）
- 4) 治療薬マニュアル：医学書院、関 顕、他編（2005）
- 5) 常用医薬品の副作用：南江堂、梅田悦生（1999）
- 6) 薬剤情報提供マニュアル：じほう、徳洲会病院薬剤部編（2005）
- 7) 症状からひく薬の副作用：中外医学社、梅田悦生（2003）
- 8) 重大な副作用回避のための服薬指導情報集、じほう、日本病院薬剤師会編（2002）
- 9) Ikoma A, Nakada K, Siziki T, Reynolds JC, Todo S, Startzl TE: *Gastroenterology* 104(supple): A525 (1993)
- 10) 栗本義彦、小松幹志、草島勝之、小松作蔵：concordant 異種肺グラフトの長期生着と FK506 による麻痺性イレウス *日本胸部外科学会雑誌* 44(supple): 1574 (1996)
- 11) 石橋道夫、深尾 立、高橋公太、幅 俊人、内田和治、高橋史郎、岩崎洋治、大田和夫、高木 弘、園田孝夫：腎移植における FK506(tacrolimus)前期第 II 相試験成績. *移植* 29: 614-631 (1994)
- 12) 佐藤松治、松浦 亨、相本康晴、浜田幸治、浜田 毅：末梢性筋弛緩剤によると思われる麻痺性イレウス・急性胃拡張を呈した 1 例. *臨床神経学* 23(supple): 722, 1983
- 13) 今井利一、井上純雄、葛原敬八郎：タクロリムスによるイレウスが疑われた 2 例. *共済医報* 48(supple): 142 (1999)
- 14) 渡辺逸平、佐藤一範、下地恒毅：向精神薬長期大量服用中の重症精神分裂病患者に発症した toxic megacolon. *ICU と CCU* 21: 1059-1065 (1997)
- 15) 古江 尚. 4. 消化器症状とその対策 D. 便秘 In: *がん化学療法の副作用対策・改訂版* (赤沢修吾ら編) : 先端医学社、東京、pp205-207 (1996)
- 16) 医薬品・医療用具等安全性情報 No.202、厚生労働省医薬食品局（平成 16 年 6 月）

(原因医薬品一覧)

A: ムスカリン受容体遮断作用を有する医薬品

フェノチアジン誘導体

塩酸クロルプロマジン

ブチロフェノン誘導体

ハロペリドール

三環系抗うつ薬

塩酸アミトリプチリン

塩酸イミプラミン

ベラドンナアルカロイド

硫酸アトロピン

臭化ブチルスコポラミン

ロートエキス

頻尿抑制薬

プロピベリン

オキシブチニン

その他

ジソピラミド

B: オピオイド受容体、 μ 受容体に作用する医薬品

オピオイド性鎮痛薬

塩酸モルヒネ

リン酸コデイン

アヘン 等

ロペラミド

C: 抗がん剤、免疫抑制剤

塩酸イリノテカン

メトトレキサート

シスプラチン

酒石酸ビノレルビン

メシル酸イマチニブ

ゲフィチニブ

フルオロウラシル

メルファラン

ビンクリスチン

ビンデシン

ビンブラスチン

タクロリムス

カルボプラチン 他

D: 腸内容の停滞からイレウス様症状をおこしうる医薬品

α -グルコシダーゼ阻害剤

ボグリボース

アカルボース

ポリスチレンスルホン酸製剤

カリメート

ケイキサレート

E: その他

ヒドララジン

ダントロレン

ゾテピン

参考1 薬事法第77条の4の2に基づく副作用報告件数（医薬品別）

○注意事項

1) 薬事法第77条の4の2の規定に基づき報告があったもののうち、報告の多い推定原因医薬品（原則として上位10位）を列記したものを。

注)「件数」とは、報告された副作用の延べ数を集計したもの。例えば、1症例で肝障害及び肺障害が報告された場合には、肝障害1件・肺障害1件として集計。また、複数の報告があった場合などでは、重複してカウントしている場合があることから、件数がそのまま症例数にあたらないことに留意。

2) 薬事法に基づく副作用報告は、医薬品の副作用によるものと疑われる症例を報告するものであるが、医薬品との因果関係が認められないものや情報不足等により評価できないものも幅広く報告されている。

3) 報告件数の順位については、各医薬品の販売量が異なること、また使用法、使用頻度、併用医薬品、原疾患、合併症等が症例により異なるため、単純に比較できないことに留意すること。

4) 副作用名は、用語の統一のため、ICH 国際医薬用語集日本語版（MedDRA/J）ver. 10.0に記載されている用語（Preferred Term：基本語）で表示している。

年度	副作用名	医薬品名	件数
平成16年度 (平成17年7月集計)	麻痺性イレウス	塩酸イリノテカン	4
		メトトレキサート	4
		シスプラチン	4
		酒石酸ビノレルビン	2
		クラリスロマイシン	2
		ゲフィチニブ	2
		ジクロフェナクナトリウム	2
		オランザピン	2
		テガフル・ギメラシル・オテラシル	2
		テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウ	2
		リルゾール	2
		プラシルカスト水和物	2
		フルオロウラシル	2
		メルファラン	2
		その他	9
	合 計	43	
平成17年度 (平成18年10月集計)	麻痺性イレウス	パクリタキセル	3
		塩酸オキシコドン	2
		ポリカルボフィルカルシウム	2
		硫酸マグネシウム・ブドウ糖	1
		テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウ	1
		デカン酸ハロペリドール	1
		シロスタゾール	1

	ハロペリドール	1
	テガフル・ウラシル	1
	ホリナートカルシウム	1
	マレイン酸レボメプロマジン	1
	ミチグリニドカルシウム水和物	1
	メシル酸イマチニブ	1
	メトクロプラミド	1
	リスペリドン	1
	塩酸イリノテカン	1
	ダントロレンナトリウム	1
	塩酸ノギテカン	1
	塩酸プロカインアミド	1
	酒石酸ビノレルビン	1
	臭化チオトロピウム水和物	1
	非ピリン系感冒剤	1
	硫酸ビンクリスチン	1
	合 計	27

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。

<http://www.info.pmda.go.jp/>

参考2 ICH 国際医薬用語集日本語版 (MedDRA/J) ver.10.1 における主な関連用語一覧

日米 EU 医薬品規制調和国際会議 (ICH) において検討され、取りまとめられた「ICH 国際医薬用語集 (MedDRA)」は、医薬品規制等に使用される医学用語 (副作用、効能・使用目的、医学的状态等) についての標準化を図ることを目的としたものであり、平成16年3月25日付薬食安発第 0325001 号・薬食審査発第 0325032 号厚生労働省医薬食品局安全対策課長・審査管理課長通知「「ICH 国際医薬用語集日本語版 (MedDRA/J)」の使用について」により、薬事法に基づく副作用等報告において、その使用を推奨しているところである。下記に該当する PT (基本語) とリンクする LLT (下層語) を示した。

なお、近頃開発され提供が開始されている MedDRA 標準検索式 (SMQ) では「麻痺性イレウス」に直接該当する SMQ は現時点では開発されていないが、関連するものとして「消化管の穿孔、潰瘍、出血あるいは閉塞 (SMQ)」が開発されており、包括的な検索が可能である。

名称	英語名
○PT：基本語 (Preferred Term) 麻痺性イレウス	Ileus paralytic
○ LLT：下層語 (Lowest Level Term)	
回腸麻痺	Paralysis ileum
結腸麻痺	Paralysis of colon
腸管麻痺	Paralysis intestinal
腸麻痺	Paralysis of intestine
麻薬性イレウス	Narcotic ileus
麻痺性イレウス	Ileus paralytic
慢性十二指腸イレウス	Chronic duodenal ileus